Contents

演劇芸術監督　小川絵梨子 …… 2

2022/2023シーズン　演劇　ラインアップ …… 3

海外招聘公演
ガラスの動物園 …… 4

新国立劇場　開場25周年記念公演
レオポルトシュタット …… 6

【未来につなぐもの】新作Ⅰ
私の一ヶ月 …… 9

【未来につなぐもの】新作Ⅱ
夜明けの寄り鯨 …… 12

フルオーディション5
エンジェルス・イン・アメリカ …… 15

【未来につなぐもの】新作Ⅲ
山田佳奈新作 …… 18

長塚圭史新作 …… 20

こつこつプロジェクト ― ディベロップメント ― 22

ギャラリープロジェクト …… 23

公演一覧（1997.10～2022.6） …… 24

2022/2023 シーズン 演劇

演劇芸術監督　小川絵梨子

二年以上もの間、世界中が新型コロナウイルスの影響によって多大なる影響を受け、厳しい状況が続いています。日常が否応なく変化し、毎日の不安が消えることは難しいかもしれませんが、この先少しでも事態が収束に向かって行くことを切に願います。劇場に足を運ぶこと自体が大変な中、舞台を楽しみに見に来てくださった観客の皆さまには深く感謝すると共に、これ以上ないほどの大きな励みとなりました。舞台を見て下さる方々、見たいと思って下さる方々の存在の大きさと有り難さを改めて噛みしめる日々です。舞台芸術の可能性をより広げ、そしてより良き作品をお届けできるよう努めて参りたいと思います。

新国立劇場演劇の 2022/2023 シーズンでは、これまでのシーズンにはない新しい試みがあります。まずはシーズン幕開けに、フランス・パリの国立オデオン劇場からの招聘公演『ガラスの動物園』をお届け致します。本来は 2020 年に招聘予定でしたが感染症の影響により二回の延期となり、今シーズンに遂にお届けすることが叶うと思っております。続いては劇作家トム・ストッパードの最新作となる『レオポルトシュタット』を上演致します。ストッパード自身の半生を元に家系図を辿りながら、繰り返される苦しみの歴史の中で命を繋ぎ、世代を紡いできた或る一家の姿を描く物語です。二つの中劇場での公演に続いて、小劇場では「未来につなぐもの」と題したシリーズで新作を三本お届け致します。劇作家の横山拓也さんと山田佳奈さんの新作、そして 2019 年よりイギリスのロイヤルコート劇場と行ってきた劇作家ワークショップから生まれた須貝 英さんの新作になります。演出には稲葉賀恵さん、大澤 遊さん、眞鍋卓嗣さんをお迎え致します。劇作家と演出家は全て 30 代、40 代となり、現在社会で活躍する世代が、過去から現在へ、そしてその先へつないでいくものをテーマに物語を描きます。今というこの場所から、これからの未来に何をつないでいくのかを考えていくシリーズとなります。続いて、フルオーディション企画では 20 世記を代表する戯曲の一つとも言える大作『エンジェルス・イン・アメリカ』を上演致します。第一部「ミレニアム迫る」と第二部「ペレストロイカ」の同時公演を行い、計二ヶ月間に渡る公演を予定しております。演出にはオーディション企画では二回目となる上村聡史さんをお迎え致しました。そしてシーズンのラストには、「こどももおとなも楽しめるシリーズ」の第四弾として、長塚圭史さんによる新作をお届け致します。

今シーズンでは就任以来初めてとなる海外招聘公演や、現代劇作家による新作のシリーズ、フルオーディション企画では二部作の二ヶ月間公演など、新たな試みに挑戦して参ります。その他、こつこつプロジェクトの第三期がスタートし、ギャラリープロジェクトでは引き続き中高生のための演劇ワークショップを行う他に新しい企画も予定しております。

2022/2023 シーズンの新国立劇場演劇を一人でも多くの皆さまに楽しんで頂けましたら幸いに存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

〈プロフィール〉
2004 年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07 年、平成 17 年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18 年 9 月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。
近年の演出作品に、『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART ―心の罪―』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。
新国立劇場では『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首－幻に長崎を想う曲－』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。

Drama

2022/2023 シーズン　演劇　ラインアップ

〈計 7 演目〉

2022 年 9 - 10 月　**海外招聘公演**

ガラスの動物園

作：テネシー・ウィリアムズ
演出：イヴォ・ヴァン・ホーヴェ
制作：国立オデオン劇場

2022 年 10 月
新国立劇場　開場 25 周年記念公演　**日本初演**

レオポルトシュタット

作：トム・ストッパード
翻訳：広田敦郎
演出：小川絵梨子

2022 年 11 月
【未来につなぐもの】新作Ⅰ　**新作**

私の一ヶ月

作：須貝　英
演出：稲葉賀恵

2022 年 12 月
【未来につなぐもの】新作Ⅱ　**新作**

夜明けの寄り鯨

作：横山拓也
演出：大澤　遊

フルオーディション5

2023 年 4 - 5 月　**新訳上演**

エンジェルス・イン・アメリカ

第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部「ペレストロイカ」

作：トニー・クシュナー
翻訳：小田島創志
演出：上村聡史

2023 年 6 月
【未来につなぐもの】新作Ⅲ　**新作**

山田佳奈新作

作：山田佳奈
演出：眞鍋卓嗣

2023 年 7 月　**新作**

長塚圭史新作

作・演出：長塚圭史

2022 年 9-10 月
＜海外招聘公演＞

ガラスの動物園

The Glass Menagerie
中劇場〈フランス語上演／日本語字幕付〉

●会員先行販売期間：2022 年 7/23（土）～7/26（火）
●一般発売日：2022 年 8/6（土）
料金 S:11,000 円 A:7,700 円 B:4,400 円

作：テネシー・ウィリアムズ　Written by Tennessee WILLIAMS
演出：イヴォ・ヴァン・ホーヴェ　Directed by Ivo van HOVE

制作：国立オデオン劇場　Creation Odéon-Théâtre de l'Europe

出演：イザベル・ユペール、ジャスティーン・バチェレ、シリル・グエイ、アントワン・レナーツ
Cast: Isabelle HUPPERT, Justine BACHELET, Cyril GUEÏ, Antoine REINARTZ

作 品

フランス、パリの国立オデオン劇場の協力のもと、2020年3月にオデオン劇場制作によりワールドプレミアを迎えたテネシー・ウィリアムズの代表作『ガラスの動物園』を招聘し日本初演します。2020/2021シーズンの開幕作品として上演を予定しておりました本作は、コロナ禍の中、本国フランスにおいても公演5日目にして閉幕、来日も叶いませんでした。21年秋に再度予定しておりました延期公演も感染症の影響による日本への入国制限などにより、残念ながら再び中止となってしまいましたが、この度22年9月の来日公演が決定いたしました。

主演のアマンダ役にはフランスを代表する女優であり、映画、舞台と幅広く活躍するイザベル・ユペール、演出には、話題作を次々と発表し、今最も世界が注目する演出家、イヴォ・ヴァン・ホーヴェがあたります。

物 語

この戯曲は「追憶の劇」である。

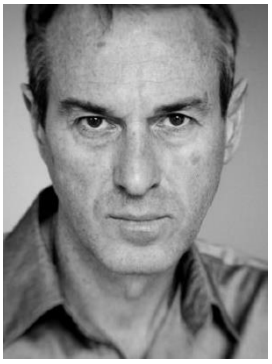
舞台は不況時代のセントルイスの裏町。メインキャラクターはアマンダ、彼女の娘のローラ、息子のトムの 3 人。生活に疲れながらも昔の夢を追い、儚い幸せを夢見る母親アマンダは未だに自分のことを箱入りの南部婦人だと思っている。靴工場で働くトムは家族を養いながら夢である詩人を志し、隙を見つけては映画に通う。彼の姉ローラは病的なほどに自意識過剰である。彼女はアパートから一歩も出ずに、自身のコレクションである小さく繊細なガラス細工の動物たちを来る日も来る日も磨き続ける……。この家にはそれぞれに別の幸せな人生を夢見る 3 人の孤独な者たちが一緒に閉じ込められている。しかしそんな日々も、彼らの夢が叶うかに思えたある晩までのことだった。ごく普通の青年でトムの友人でもあるジム・オコナーを、アマンダは「婿候補」と勘違いし、彼がローラにプロポーズする姿まで夢想してしまう。当然のごとく、彼女の計画は新たな、あるいは最後の幻想となる……。

スタッフ　プロフィール

テネシー・ウィリアムズ
Tennessee WILLIAMS

アメリカの劇作家（1911年-83年）。ミシシッピ州コロンバスに生まれ、不況時代のセントルイスで複雑な家庭環境のもと青春時代を過ごす。各地を放浪しながら創作をしていたが、39年に4つの一幕劇でシアター・ギルド賞を受賞。44年自伝的作品『ガラスの動物園』がブロードウェイで上演された第一作。この成功に続く47年の『欲望という名の電車』、55年の『やけたトタン屋根の上の猫』で2度のピュリッツァー賞を受賞し、劇作家としての地位を確固たるものにしたが、その名声の裏で、生涯背負い続けた孤独と葛藤から私生活は荒れていった。83年ニューヨークのホテルの一室にて事故死。享年71歳。

イヴォ・ヴァン・ホーヴェ
Ivo van HOVE



2001 年よりインターナショナル・シアター・アムステルダムの芸術監督を務めている。自身の演出作品（『Germs』、『Rumours』）により、1981年に演出家としてのキャリアをスタートさせた。90年から00年の間、Het Zuidelijk Toneel 劇団の監督を務める。98年から04年には、オランダ・フェスティバルの監督を務め、国際的な演劇作品、音楽、歌劇、およびダンスを毎年上演した。また10年まで、アントワープの劇場芸術部門の芸術的指導者を務めた。
14 年にパリ・オデオン劇場で上演したアーサー・ミラー作『橋からの眺め』は、15 年ロンドンのヤング・ヴィックにも招かれて絶賛され、ローレンス・オリヴィエ賞・最優秀演出賞を受賞。その後、NY リンカーン・センターでも上演されてブロードウェイ・デビューを飾り、第 70 回トニー賞・演劇演出賞を受賞した。続いて 16 年 3 月より同じくミラー作『るつぼ』(音楽：フィリップ・グラス)を演出し、同じくトニー賞の再演演劇作品賞、主演女優賞など 4 部門候補となるなど、話題作を連発している。

新国立劇場　開場25周年記念公演

2022年10月
＜日本初演＞
Japan Premiere

レオポルトシュタット

Leopoldstadt

中劇場

●会員先行販売期間：2022年8/27（土）～8/30（火）
●一般発売日：2022年9/4（日）
料金　S：8,800円　A：6,600円　B：3,300円

作：トム・ストッパード　Written by Sir Tom STOPPARD

翻訳：広田敦郎　Translated by HIROTA Atsuro

演出：小川絵梨子　Directed by OGAWA Eriko

出演：浜中文一　音月 桂
村川絵梨　木村 了　土屋佑壱　岡本 玲　那須佐代子　ほか

Cast：HAMANAKA Bunichi, OTOZUKI Kei,
MURAKAWA Eri, KIMURA Ryo, TSUCHIYA Yuichi, OKAMOTO Rei, NASU Sayoko　and others

作 品

英国の劇作家トム・ストッパードの最新作『レオポルトシュタット』を日本初演いたします。『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『コースト・オブ・ユートピア』『アルカディア』など、日本でもこれまで多くの作品が上演されているストッパードが「最後の作品になるかもしれない」としたことから、その上演前より大きな話題を呼び、2020年1月にロンドンで世界初演を迎えると瞬く間に絶賛されました。20年のオリヴィエ賞作品賞を受賞し、ブロードウェイをはじめ英国国外での上演も既に決定している本作で描かれているのは、あるユダヤ人一族の物語。戦争、革命、貧困、ナチスの支配、そしてホロコーストに直面した20世紀前半の激動のオーストリアに生きた一族の一大叙事詩は、50 代で初めて自らのユダヤ人としてのルーツを知ったというストッパードの自伝的要素も含まれているといわれています。

翻訳に超大作『コースト・オブ・ユートピア』を手掛けた広田敦郎を迎え、『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『かもめ』『ほんとうのハウンド警部』などこれまで数々のストッパード作品に演出者・翻訳者として携わってきた演劇芸術監督の小川絵梨子が演出を手掛けます。この大作をおよそ30名のキャストと共にお届けします。

物 語

20世紀初頭のウィーン。レオポルトシュタットは古くて過密なユダヤ人居住区だった。その一方で、キリスト教に改宗し、カトリック信者の妻を持つヘルマン・メルツはそこから一歩抜け出していた。街の瀟洒な地区に居を構えるメルツ家に集った一族は、クリスマスツリーを飾り付け、過越祭を祝う。ユダヤ人とカトリックが同じテーブルを囲み、実業家と学者が語らうメルツ家は、ヘルマンがユダヤ人ながらも手に入れた成功を象徴していた。しかし、オーストリアが激動の時代に突入していくと共にメルツ家の幸せも翳りを帯び始める。大切なものを奪われていく中で、ユダヤ人として生きることがどういうことであるかを一族は突き付けられる……

翻訳家からのメッセージ

広田敦郎

トム・ストッパードといえば、難解で深遠なテーマを好んで扱うインテレクチュアルな文学者と考える向きもあります。しかし、それ以上に彼は、圧倒的な物語の力で強烈な感情を呼び起こすことに長けた、職人的劇作家です。事実、わたし自身『レオポルトシュタット』を翻訳、改稿しながら、ほかの作品ではないほどに大笑いし、そして何度も心を打ちのめされています。この戯曲で取り上げられるオーストリアやユダヤ民族の歴史、文化について、さほどなじみがないにもかかわらずです。1899年から1955年のウィーンを舞台に、社会の抑圧や人類史上まれに見る惨劇を懸命に生き延びようとした四世代の家族の物語は、百年後の日本に生きるわたしたちにとっても、切実に感じられるはずです。

『レオポルトシュタット』は、作者が自らのルーツであるユダヤ民族について、はじめて正面から取り上げた戯曲です。旧チェコスロバキア生まれのストッパードは、幼少期にナチスの迫害を逃れ、家族とともにシンガポールへ移住、日本軍の侵攻により父を失った後、さらなる避難先のインドで母が英軍将校と再婚して以来、イギリス人として育ちました。そして後年、四人の実祖父母を含む多くの家族がホロコーストで亡くなったことを知らされます。彼は自身の人生を a charmed life（魔法のように強運な人生）と表現します。運や偶然のいたずらは、彼の戯曲におなじみのテーマです。

ストッパードのウィットと情熱あふれるテキストをもとに、この理不尽な世界において生の奇跡を祝福する劇、虐げられた命の尊厳を回復する劇をつくるべく、アーティストと観客が一体となって集合的な知性とユーモアのセンスを発揮できるよう、助力できれば幸いです。

演出家からのメッセージ

小川絵梨子

トム・ストッパードの新作である本作は、2020 年 1 月 25 日にロンドンのウィンダムズ劇場で幕を開けました。しかし感染症拡大により公演は一時中断となり、約一年半後、21 年 8 月から上演が再開されることとなりました。現時点ではストッパードの最新作であり、多くの部分でストッパードの自伝的な要素が見られる物語となっています。

『レオポルトシュタット』は、20 世紀前半のウィーンのユダヤ人社会を舞台に、あまりに惨い歴史の中にあっても世代を紡ぎ続けてきた或るユダヤ人の一族について描かれています。実際にストッパードの祖父母たちはナチスの強制収容所で亡くなられました。迫害が繰り返され、生きる権利も住む場所も奪われ続けてきた一族ですが、しかしその生活の中には決して苦しみだけではなく、日々の喜びや笑いや家族の強い繋がりがありました。歴史的英雄や重要人物ではなくとも時代の中に確かに存在し、厳しい状況下でそれぞれの人生の物語をしっかりと生き続けた人々の姿を、できる限りリアルに真摯に立ち上げていきたいと考えています。

スタッフ　プロフィール

トム・ストッパード
Sir Tom STOPPARD

1937年、チェコスロバキアのユダヤ系の家庭に生まれる。第二次世界大戦中、ナチスから逃れ、シンガポール、インドと移り住む。46年、イギリスに移住。17歳でジャーナリストとなり、報道記事、映画・演劇の批評を担当。また、ラジオドラマ等の脚本、戯曲を執筆する。66年、エジンバラ・フリンジ・フェスティバルで上演した『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』が大評判を呼び、翌67年、ロンドン・オールド・ヴィック劇場にて上演。同年、ブロードウェイにも進出し、トニー賞ベスト作品賞をはじめ、数々の賞を独占した。その後も知的ユーモアとウィットに富んだ数多くの作品を書き、イギリス演劇界にその地位を確立した。また『未来世紀ブラジル』や『太陽の帝国』など、映画の脚本も多数手掛け、幅広い方面で高い評価を得ている。90年『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』を映画化、自ら監督、ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を、99年『恋におちたシェイクスピア』でアカデミー賞オリジナル脚本賞を受賞している。そのほか主な戯曲に『ジャンパーズ』『茶番劇』『ザ・リアル・シング』『アルカディア』『コースト・オブ・ユートピア』『ロックンロール』『ハード・プロブレム』など。97年、英国王室よりナイト爵位を叙せられた。

広田敦郎
HIROTA Atsuro

劇団四季、TPTを経て、フリーランスの戯曲翻訳者。英語圏演劇の古典・新作から非英語圏の作品まで、翻訳を数多く手がける。2009年、トム・ストッパード作『コースト・オブ・ユートピア―― ユートピアの岸へ』の翻訳で、第2回小田島雄志翻訳戯曲賞を受賞。アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）2013年グランティ。
最近の翻訳上演作品：サイモン・スティーヴンス作 『FORTUNE』『夜中に犬に起こった奇妙な事件』『ポルノグラフィ』『広い世界のほとりに』、テネシー・ウィリアムズ作『地獄のオルフェウス』『西洋能 男が死ぬ日』、アーサー・ミラー作 『セールスマンの死』『みんなわが子』『るつぼ』、アレクシ・ケイ・キャンベル作『ブラッケン・ムーア』『弁明』『信じる機械』『プライド』、カレル・チャペック作 『母』、ヘンリック・イプセン作『民衆の敵』、ジョン・スタインベック作『二十日鼠と人間』、ハワード・ブレントン作『ブラディ・ポエトリー』、クリストファー・ハンプトン作『危険な関係』、フェデリコ・ガルシア・ロルカ作『ベルナルダ・アルバの家』、ネルソン・ロドリゲス作『禁断の裸体』、ミュージカル『I Do! I Do!』（トム・ジョーンズ脚本・詞）、サム・シェパード作『TRUE WEST』

小川絵梨子
OGAWA Eriko

※2ページを参照

【未来につなぐもの】新作Ⅰ

2022年11月
＜新作＞
A New Play

私の一ヶ月

My Month
小劇場

●会員先行販売期間：2022年9/10（土）～9/13（火）
●一般発売日：2022年9/17（土）
料金 A:7,700円 B:3,300円

作：須貝 英　　Written by SUGAI Ei
演出：稲葉賀恵　　Directed by INABA Kae

作 品

本作は2022/2023シーズン中に日本の劇作家の新作をお届けするシリーズ企画、【未来につなぐもの】の第一弾となります。

「劇作家の劇場」と呼ばれる英国ロンドンのロイヤルコート劇場が世界中で行っている、若い劇作家たちの為の国際的ワークショップを、2019年5月より、新国立劇場とタッグを組み、日本で初めて実施いたしました。60 年以上の歴史を持つこの劇場は「新作戯曲のナショナルシアター」として、数多くの若い才能を生み出してきました。そのロイヤルコート劇場インターナショナル部門が、世界各国にアソシエイトディレクター、文芸マネージャー、 劇作家を派遣し実施しているワークショップを、全4フェーズ、あしかけ2年に渡り実施、14名の若い劇作家たちが参加いたしました。それぞれのフェーズごとにワークショップ、ディスカッション、推敲を重ね、最終フェーズでは演出家、俳優も参加してのリーディングを通して成長を重ねてきた作品群より、このたび、須貝 英による『私の一ヵ月』を上演いたします。

演出には同年代の注目の若手演出家、新国立劇場では2018年に『誤解』を演出した、文学座の稲葉賀恵を迎えます。

物 語

3つの空間。2013年11月、とある地方の家の和室で日記を書いている泉。2013年9月、両親（実、美由紀）の経営する地方のコンビニで毎日買い物をする拓馬。そして2029年9月、都内の大学図書館の閉架書庫でアルバイトを始めた明結（あゆ）は、職員の佐東と出会う。やがて、3つの時空に存在する人たちの関係が明らかになっていく。それぞれが拓馬の選んだつらい選択に贖いを抱えていた……

作家からのメッセージ

須貝 英

今までいただいた機会や幸運が繋がりに繋がって、ここへ連れて来てもらったような気がします。心からありがたく思います。

この脚本は僕一人で書いたものではありません。「ロイヤルコート劇場×新国立劇場　劇作家ワークショップ」という素晴らしい企画の中で育まれた作品です。日英両国の劇場チームと日本の若手劇作家たち、彼らと共に時間を掛けて議論を交わし、改稿を重ね、コロナ禍で延期しながらも、二年近い時間を掛けて全員で最後までやりきった思い入れの深い企画です。この経験だけでも財産ですが、さらにこの作品を選んでいただけて、しかも兼ねてよりご一緒したかった稲葉さんが演出をしてくださる。この上ない幸せです。

この作品では、あらゆることが加速度的に進んでいく現代で、そこから弾き飛ばされた人々を描こうと思いました。貧しく寒い地方都市の、ある家庭とコンビニエンスストア。都内の大学図書館の閉架書庫。その三つの場所を主軸に物語は進みます。

お客様と一緒に作品を通して、見過ごされてしまいそうになるささやかなものに目を向けること、未来に何を残していくべきかを考えることができたら、この物語が生まれ落ちた意味もあるのではないかと考えています。どうぞご期待ください！

演出家からのメッセージ

稲葉賀恵

この度はこのような素晴らしい企画に呼んで頂き、本当に感謝いたします。

新国立劇場がロイヤルコート劇場と組んで劇作のワークショップを行うとお聞きした時、期待と興奮に包まれたことを覚えています。ロイヤルコート劇場が数々の劇作家を輩出し、イギリス演劇界での新人作家の登竜門的劇場であることは勿論知っていました。そして何より劇作家が時間をかけて自分の作品を創作出来る場を、国立の劇場が企画したということに感銘を受け、ここで生み出された作品を一読者として早く読んでみたいと思っていました。まさか、その作品を自分自身が演出させて頂く機会が来るとは、人生は何が起こるか分からないものです。しかもそれが数年前に豊橋の劇場で知り合い、同年代として刺激を受けた須貝さんの作品だとお聞きした時は喜びとともに感慨深いものがありました。これまでの色々なご縁が繋がって今創作の場に立たせて頂いていることを改めて実感したのです。

この作品は一つの家族、とりわけ一人の母と娘を中心に物語が繰り広げられます。彼らの過去の傷を鋭く抉りながらも抱きしめる言葉の数々、そこに市井の人々を愛おしみ、彼らが未来に一歩進めるよう背中を押す須貝さんの厳しくも優しい眼差しがあります。私はこの眼差しを良い意味で疑ったり信じたりしながら、私たちの世代がこの世界をどう捉え、どう未来に受け渡していけるのか、この作品を通して考え抜きたいと思います。今回はなにより作家が隣にいて伴走してくださる、こんなに力強く幸せなことはありません。初日まで試行と挑戦を繰り返し、高みを目指していきたいです。どうぞご期待ください。

スタッフ プロフィール

須貝 英
SUGAI Ei

1984 年生まれ、山形県出身。早稲田大学第一文学部美術史学科卒。在学中は演劇集団キャラメルボックスを輩出した「劇団てあとろ 50’」に在籍。卒業後の 2007 年「箱庭円舞曲」に俳優として所属、13 年に退団する。10 年には演劇ユニット「monophonic orchestra」を旗揚げ。俳優・脚本家・演出家・ワークショップ講師として活動中。現在は演劇サークル「Mo’xtra」も主宰している。主な脚本・演出作品は穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主催・高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを～Dystopia before Utopia～』。他、舞台『オリエント急行殺人事件』の構成協力、『照くん、カミってる！～宇曾月家の一族殺人事件～』の脚本を務める（共に演出・河原雅彦氏）。北区王子小劇場主催佐藤佐吉賞にて 09 年度最優秀主演男優賞を受賞。また、脚本を担当した映画『カラオケの夜』(山田佳奈監督）が門真国際映画祭 2019 にて映画部門最優秀作品賞を受賞。

稲葉賀恵
INABA Kae

日本大学芸術学部映画学科卒。在学中は映像作品、インスタレーション作品などを創作。2008 年文学座附属演劇研究所入所。13 年に座員となる。同年 4 月『十字軍』にて文学座初演出。主な演出作品は、『解体されゆくアントニンレーモンド建築旧体育館の話』(15 年 シアタートラムネクストジェネレーション)『野鴨』(16 年 文学座アトリエの会)『野良女』(17 年 東映ビデオ)『川を渡る夏』(17 年 オフィス３〇〇)『ブルーストッキングの女たち』(19 年 兵庫県立ピッコロ劇団)『墓場なき死者』『母 MATKA』(共に 21 年 オフィスコットーネ)『熱海殺人事件』(21 年文学座アトリエの会）など。新国立劇場では、『誤解』(18 年）を演出。

【未来につなぐもの】新作Ⅱ

2022年12月
＜新作＞
A New Play

夜明けの寄り鯨

Beaching at Dawn

小劇場

●会員先行販売期間：2022年10/22（土）～10/25（火）
●一般発売日：2022年10/29（土）
料金 A：7,700円 B：3,300円

作：横山拓也　Written by YOKOYAMA Takuya

演出：大澤 遊　Directed by OSAWA Yu

作 品

2022/2023シーズン中に日本の劇作家の新作をお届けするシリーズ企画、【未来につなぐもの】の第二弾。いま演劇界で注目の劇作家・横山拓也が、新国立劇場では「こつこつプロジェクト」第一期として『スペインの戯曲』を手がけた、若手演出家・大澤 遊とタッグを組み、新作上演でおおくりします。

物 語

和歌山の港町。手書きの地図を持った女性が25年ぶりに訪れる。冬の海岸で、若いサーファーが打ち上げられたようにへばっている。その様子を見ていると、彼は「下手ですみません」と言って笑った。女性は大学時代、この港町にサークルの合宿でやってきて、たまたま寄り鯨が漂着した現場に居合わせた。まだ命のあった鯨を、誰もどうすることもできなかった。

ここは江戸時代から何度か寄り鯨があって、そのたびに町は賑わったという。“寄り神様”といわれ、鯨の肉から、内臓、油、髭まで有効に使われたと、サーファーは地元の年寄りたちから何度も聞いた。

女性が持っている地図は、大学の同級生がつくった旅のしおりの１ページ。女性はその同級生を探しているという。地元のサーファーは、一緒に探すことを提案した。

作家からのメッセージ

横山拓也

年に何回か、鯨が岸に打ち上げられるニュースを見て、小さく興奮する自分がいます。大型哺乳類の命の消失に触れてショックを受けると同時に、あの大きな躯体がいつのまにか砂浜に辿り着いたという事象に、ミステリとロマンを感じてしまうのです。鯨の座礁は、海洋汚染などの環境問題や船舶の騒音による影響が原因とも言われますが、最近では「ソナー（音波探知）の錯乱」による例がもっとも多いと報告されています。鯨やイルカは、音波を出してその跳ね返りで自分の位置を把握するという話を耳にしたことがあると思います。その能力が地磁気の等高線と遠浅の直行線とが交差するところで錯乱が起きて座礁する例が多いそうです。説明を聞いてもよくわかりません。この座礁した鯨のことを「寄り鯨」と呼ぶことを知りました。日本ではその昔「鯨一頭で七浦が潤う」といって、浅瀬に上がった寄り鯨を捕らえて、その恩恵をみんなで分け合う地域もあったそうです。今回はじめてご一緒する大澤さんと「どんな作品にしましょうか」とやりとりする中で、座礁鯨のモチーフを提案したところ面白がってくれたので、「迷う」「探す」「地図」などの要素をもって書くことにしました。楽しみしかなくて気持ちが逸りますが、筆が座礁しないように、慎重に執筆に取り組みたいと思います。

演出家からのメッセージ

大澤 遊

既成の台本をもとに創作することの多かった僕が、新作の演出のチャンスをいただけた、まず素直に嬉しいです。さらに様々な劇場でお名前をよく目にする横山拓也さんの新作。楽しみで仕方ありません。

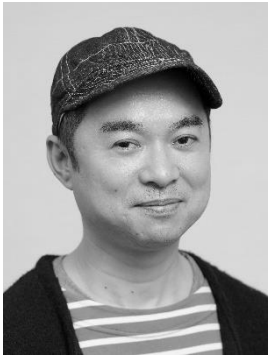
横山さんとざっくばらんにお話ししている中から、いくつかのイメージが生まれて来ました。それがこの創作の始まりです。いま横山さんがセリフを紡いでくれているところです。以前、恩師である宮田慶子さんに作家が机に向かっている姿を後ろから見たときに、声を掛けられなかったと伺ったことがあります。作家がセリフを紡ぐ作業、物語と向き合う作業は、大袈裟にいうと命を削る作業なのかもしれません。いま僕にできることは作家さんと並走すること。ただ見守ることしかできないかもしれませんが。横山作品の魅力のひとつは、どの登場人物もしっかりと生きている、もしくは生きていたこと。書き上がった物語を、一緒に向き合う仲間たちと丁寧に立ち上げていきたいと思います。地図を頼りに「生きている」ということを大事にして。

余談ですが、保育園で僕のものだとわかるように貼られていたシールが鯨だったことをふと思い出しました。小さい頃から鯨と縁があるようです。

スタッフ　プロフィール

横山拓也
YOKOYAMA Takuya

1977 年生まれ。大阪府出身。劇作家、演出家、iaku 代表。緻密な会話が螺旋階段を上がるようにじっくりと層を重ね、いつの間にか登場人物たちの葛藤に立ち会っているような感覚に陥る対話中心の劇を発表している。繰り返しの上演が望まれる作品づくり、また、大人の鑑賞に耐え得るエンタテインメントとしての作品づくりを意識して活動中。
【受賞歴】第15回日本劇作家協会新人戯曲賞『エダニク』、第1回せんだい短編戯曲賞『人の気も知らないで』、第72回文化庁芸術祭賞新人賞〈関西〉ほか。



大澤 遊
OSAWA Yu

日本大学芸術学部演劇学科卒業。演劇ユニット「空っぽ人間〈EMPTY PERSONS〉」を主宰、すべての作品で構成・演出を手掛けるほか、フリーの演出家として活動。主な演出作品として『あん』『BIRTHDAY』『ダム・ウェイター』『君がいた景色』『まじめが肝心』『かもめ』『少年Bが住む家』など。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修制度の研修員としてイギリスのDerby Theatreにて１年間研修。新国立劇場では「こつこつプロジェクト」の第一期の演出として参加、『スペインの戯曲』を一年かけて取り組んだ。

フルオーディション Vol.5

2023 年 4-5 月
＜新訳上演＞
New Translation

エンジェルス・イン・アメリカ

第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部「ペレストロイカ」

Angels in America　Part 1　Millennium Approaches / Part2　Perestroika

小劇場

●会員先行販売期間：2023 年 1/28（土）～1/31（火）
●一般発売日：2023 年 2/4（土）

作：トニー・クシュナー　Written by Tony KUSHNER

翻訳：小田島創志　Translated by ODASHIMA Soshi

演出：上村聡史　Directed by KAMIMURA Satoshi

出演：浅野雅博　岩永達也　長村航希　坂本慶介　鈴木 杏　那須佐代子　水 夏希　山西 惇

Cast : ASANO Masahiro, IWANAGA Tatsuya, OSAMURA Koki, SAKAMOTO Keisuke, SUZUKI Anne, NASU Sayoko, MIZU Natsuki, YAMANISHI Atsushi

作 品

小川絵梨子芸術監督が、その就任とともに打ち出した支柱の一つ、「演劇システムの実験と開拓」として、すべての出演者をオーディションで決定する「フルオーディション企画」。その第五弾として、1991 年の初演以来世界中で上演されてきたトニー・クシュナーの名作『エンジェルス・イン・アメリカ』二部作を一挙上演いたします。演出にはフルオーディション第三弾『斬られの仙太』を手掛けた上村聡史を再び迎え、21 年 10 月より公募を開始、12 月に約 3 週間かけて開催したオーディションを経て、8 名の出演者が決定しました。

一部と二部それぞれ約 4 時間、計 8 時間の上演を、23 年 4 月・5 月の 2 か月に渡ってお届けします。

物 語

＜第一部＞

1985 年ニューヨーク。

青年ルイスは同棲中の恋人プライアーからエイズ感染を告白され、自身も感染することへの怯えからプライアーを一人残して逃げてしまう。モルモン教徒で裁判所書記官のジョーは、情緒不安定で薬物依存の妻ハーパーと暮らしている。彼は、師と仰ぐ大物弁護士のロイ・コーンから司法省への栄転を持ちかけられる。やがてハーパーは幻覚の中で夫がゲイであることを告げられ、ロイ・コーンは医者からエイズであると診断されてしまう。

職場で出会ったルイスとジョーが交流を深めていく一方で、ルイスに捨てられたプライアーは天使から自分が預言者だと告げられ……

＜第二部＞

ジョーの母ハンナは、幻覚症状の悪化が著しいハーパーをモルモン教ビジターセンターに招く。一方、入院を余儀なくされたロイ・コーンは、元ドラァグクイーンの看護師ベリーズと出会う。友人としてプライアーの世話をするベリーズは、「プライアーの助けが必要だ」という天使の訪れの顛末を聞かされる。そんな中、進展したかに思えたルイスとジョーの関係にも変化の兆しが見え始める。

翻訳家からのメッセージ

小田島創志

社会そのものがずっと病気にかかっていた、そして今も病気にかかっているのではないか。セクシュアリティに対する政治や宗教、そして根強い差別や偏見のなかで、『エンジェルス・イン・アメリカ』の登場人物たちは、現状のままで立ち止まるのか、それとも変化を受け入れ、変化に向かって進むのか選択していく。感染症が、そして差別や偏見という疫病が蔓延しているという現実から目を背けるのか、それを直視して、戦いながら生きていく道に進むのか。登場人物だけではなく、我々全員が考えなくてはいけないテーマを、この作品は提示している。LGBTQ＋への抑圧、偏見に満ちた発言、差別的発言が未だ相次ぐ日本で、この作品を上演することの意味を考え続けたい。また翻訳者としては、トニー・クシュナーの劇言葉の豊かさ、奥深さ、ユーモアとの格闘が続いている。このテキストと向き合ううえで自分の訳語が原文から目を背け、「立ち止まる」ことは許されない、そうひしひしと感じている。

演出家からのメッセージ

上村聡史

二十世紀アメリカ演劇の名作のひとつに数えられ、演劇史のなかでも非常に重要な位置を占める、『エンジェルス・イン・アメリカ』は、1980年代における構造社会の変革と、エイズという病の脅威が覆う時代性が大きな背景としてある。そのため、再び今に上演することは困難だと思っていた。しかし、新型コロナウィルスの脅威と、他者に対する不寛容が、生命の存続をかけた世界レベルの問題として、大きくのしかかる現代に、演出者として、いや表現を生業としている者として、手掛けなくてはならない作品だと強く感じた。

多数と少数、強者と弱者、右と左、白と黒、男と女、神と人間、現実と想像、宇宙と原子、そして生と死。様々な二項対立の境界線が、登場人物たちに圧をかけていくこの物語は、今まさに、我々人間が我々自身の手で作り続けている“分断”に苦しむ、今の世界そのものだ。そして私たちは、自ら作ったその“分断”を怒り憎む。しかし、この分断という名の境界線に対し、憎しみを持って生きるのではなく、なんとかして、感得し、許していくことはできないのか……。

価値観の変化が求められる今だからこそ、己の変革に対峙する魂を、ユーモアに満ちた力強さで描きたい。果敢にも自らが手を挙げ、この作品への出演を熱望した、選ばれし八名の闘士とも言うべき俳優たちと、生きることへの自由・解放に対し、強かな政治力でステレオタイプを固持する無意識に一石を投じる作品を仕立てたい。それを実現することが、今回の私の仕事のように思う。

スタッフ　プロフィール

トニー・クシュナー
Tony KUSHNER

1956年、アメリカ・ニューヨークのユダヤ人家系に生まれ、コロンビア大学とニューヨーク大学で学ぶ。代表作『エンジェルス・イン・アメリカ』は第一部が90年に、第二部が91年に発表され、第一部はピュリッツァー賞及びトニー賞作品賞を、第二部はトニー賞を受賞、脚本を担当した2003年放送のテレビ版はエミー賞とゴールデングローブ賞を受賞した。これらの受賞歴に加え、これまでにピュリッツァー賞、オビー賞、イブニングスタンダード演劇賞、オリヴィエ賞等を受賞しており、12年に国民芸術勲章を授与されている。これまでの主な作品に“A Bright Room Called Day”　“Slavs!”　“Hydrotaphia”　“Homebody/Kabul”、翻訳・翻案を行った“The Illusion”(原作：ピエール・コルネイユ『舞台は夢』)、『ディブック』(原作：シュロイメ・アンスキー)、『セツアンの善人』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』(原作：ベルトルト・ブレヒト)、ミュージカル“Caroline, or Change”やオペラ“A Blizzard on Marblehead Neck”(共に作曲家Jeanine Tesoriとの共作)など。演劇の他にも、スティーヴン・スピルバーグ監督作品『ミュンヘン』『リンカーン』『ウエスト・サイド・ストーリー』など映画作品の脚本にも携わっている。現在は夫であるジャーナリストのマーク・ハリスと共にニューヨークに暮らしている。

小田島創志
ODASHIMA Soshi

1991年、東京生まれ。お茶の水女子大学、東京藝術大学、明治薬科大学非常勤講師。専門はハロルド・ピンター、トム・ストッパード、デイヴィッド・ヘアを中心とした現代イギリス演劇研究。また、英語圏における小説のアダプテーション（翻案）について、研究成果を日本英文学会などで発表。戯曲翻訳としては『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』、『リベリアン・ガール』『ウエストブリッジ』『ポルノグラフィ』『BIRTHDAY』など。新国立劇場では『アンチポデス』『タージマハルの衛兵』を翻訳。また共著に「ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む―ディストピアからポスト・トゥルースまで」（秦邦生編、水声社）がある。

上村聡史
KAMIMURA Satoshi

2001年文学座附属演劇研究所入所、18年に同劇団を退座し、現在はフリーで活動。09年より文化庁新進芸術家海外研修制度において1年間イギリス・ドイツに留学。第56回紀伊國屋演劇賞、第22回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第17回千田是也賞など受賞。近年の主な演出作品に、『ガラスの動物園』『Oslo －オスロ－』『ミセス・クライン』『終夜』『ブラッケン・ムーア～荒地の亡霊～』『冒した者』「約束の血『炎 アンサンディ』『岸リトラル』『森 フォレ』」など。新国立劇場では、『斬られの仙太』『オレステイア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

【未来につなぐもの】新作Ⅲ

2023 年 6 月
＜新作＞
A New Play

山田佳奈新作

A New Play by YAMADA Kana

小劇場

●会員先行販売期間：2023 年 4/1（土）～4/4（火）
●一般発売日：2023 年 4/8（土）

作：山田佳奈　　Written by YAMADA Kana

演出：眞鍋卓嗣　　Directed by MANABE Takashi

作　品

2022/2023 シーズン中に日本の劇作家の新作をお届けするシリーズ企画、【未来につなぐもの】。第三弾は、□字ック主宰、演出家、映画監督、俳優として幅広い活動を展開している山田佳奈の新作になります。演出は、劇団俳優座に所属し、劇団以外でも活躍の場を広げている、気鋭の眞鍋卓嗣です。

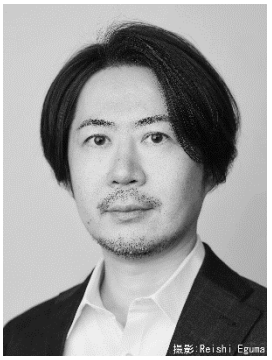
注目の作家と演出家の組み合わせがどのような作品を産み出すのか、ご期待ください。

スタッフ　プロフィール

山田佳奈
YAMADA Kana

1985年生まれ、神奈川県出身。脚本家・演出家・映画監督・俳優。元レコード会社のプロモーターを経て、2010年3月□字ックを旗揚げ。以降全ての脚本演出を手掛けている。20年に自身初の長編デビュー『タイトル、拒絶』が東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に選出。
近年の主な作品に、Netflixオリジナルドラマ『全裸監督』脚本、朝日放送テレビ ドラマ+『ハレ婚。』全話脚本・監督、水戸芸術劇場ACM劇場プロデュース舞台『ナイフ』脚本・演出など外部作品への書き下ろしも積極的に行っており、初小説『されど家族、あらがえど家族、だから家族は』を双葉社より出版。
「MIRRORLIAR FILMS」Season2参加作品である、短編映画『煌々 go on a picnic』が2月18日から公開されたばかりである。

眞鍋卓嗣
MANABE Takashi



劇団俳優座文藝演出部所属。東京都出身。大学在学中より音楽・演劇の両活動を始める。2002年に劇団俳優座演劇研究所へ入所。現在は劇団俳優座にて『インコグニート』『インク』『戒厳令』など、自らの企画による演出作を意欲的に発表し続けている。劇団外での演出作はオペラシアターこんにゃく座『森は生きている』、東京二期会『メリー・ウィドー』、名取事務所『ああ、それなのに、それなのに』など、ストレートプレイからオペラ、ミュージカルコンサートまで幅広い。劇団俳優座『雉はじめて鳴く』、名取事務所『少年Bが住む家』の演出にて第55回紀伊國屋演劇賞個人賞、第28回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。劇団俳優座『インク』、パルコ・プロデュース音楽劇『海王星』の演出にて、第29回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

2023年7月
＜新作＞
A New Play

長塚圭史新作

A New Play by NAGATSUKA Keishi

小劇場

●会員先行販売期間：2023年5/13（土）～5/16（火）
●一般発売日：2023年5/21（日）

作・演出：長塚圭史　　Written and Directed by NAGATSUKA Keishi

作　品

『音のいない世界で』（2012）、『かがみのかなたはたなかのなかに』（2015、2017）、『イヌビト～犬人～』（2020）と、未来のおとなと、かつてのこどもたちへ向けて、作品を発表してきた長塚圭史による新作を上演します。

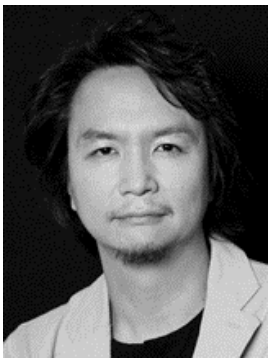
夏休みにかけてお届けする、「こどもも大人も楽しめる」シリーズ最新作、どうぞご期待ください。

スタッフ　プロフィール

長塚圭史

NAGATSUKA Keishi

1996年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を結成、作・演出・出演の三役を担う。08年、文化庁新進芸術家海外研修制度にて1年間ロンドンに留学。11年、ソロプロジェクト「葛河思潮社」を、17年には新ユニット「新ロイヤル大衆舎」を始動。21年4月にKAAT 神奈川芸術劇場 芸術監督に就任。最近の主な演出作品に『冒険者たち』『老いと建築』『王将-三部作-』『近松心中物語』『セールスマンの死』『常陸坊海尊』『桜姫～燃焦旋律隊殺於焼跡～』『イーハトーボの劇列車』など。俳優としてもドラマ『サギデカ』、映画『シン・ウルトラマン』などに出演。またレギュラー番組にTOKYO FM『yes！～明日への便り』（朗読）がある。第14回読売演劇大賞優秀演出家賞、第55回芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。新国立劇場では『アジアの女』（作・演出）『音のいない世界で』『かがみのかなたはたなかのなかに』『イヌビト～犬人～』（作・演出・出演）を手がける。



Drama

プロジェクト

こつこつプロジェクト ― ディベロップメント ―

ギャラリープロジェクト

こつこつプロジェクト ― ディベロップメント ―

KOTSUKOTSU Project ―Development―

第三期

概 要

「作り手が通常の一か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にしたい。」という小川芸術監督の意を受け、一年間を通して作品を育てていくプロジェクト。具体的には、3〜4か月ごとに試演を実施し、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議を重ね、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていきます。時間に追われない稽古のなかで、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深めることで、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

2021年12月に、第一期に参加した西沢栄治演出の『あーぶくたった、にいたった』を本公演として上演。第二期を2022年2月に終え、第三期が2023年5月頃に始動いたします。

ギャラリープロジェクト

GALLERY Project

概 要

-ギャラリープロジェクトとは？

新国立劇場では演劇芸術監督 小川絵梨子の方針の下、演劇の作り手の方々との交流を深め積極的に連携して、幅広い観客層に演劇をお届けしたいと思っています。そのために、一般の方々に向けてのワークショップや講演などを実施しており、その一環としての演劇イベントが「ギャラリープロジェクト」です。

舞台という豊かな世界を、一人でも多くの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

それぞれの詳細は、随時ウェブなどで発信します。

2020年夏より、新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策のため、ギャラリープロジェクトをご自宅でもお楽しみいただけるよう、下記ラインアップ等をオンライン配信しております。

〇トークセッション

〈演劇のおしごと〉

演劇に携わるクリエイターや団体との「横の繋がり」を広げ、その仕事に迫るトークセッション。

毎回様々なジャンルからゲストを迎え、進行役の小川絵梨子芸術監督と普段なかなか知ることができない仕事について掘り下げていきます。

〈演劇噺（えんげきばなし）〉

毎回様々なゲストを迎えて、演劇に関する「あんな話、こんな話」を語っていただくシリーズ企画です。

小川絵梨子芸術監督が進行役となって、ゲストと舞台の面白さ、奥深さを探っていきます。

〇ワークショップ

毎年夏休みの時期、中高生を対象に、日本の演劇界の第一線で活躍するスタッフ、クリエイター、俳優の特別講義やワークショップを行う「中高生のためのどっぷり演劇days」を開催しています。

また、参加者の中高生だけでなく、老若男女問わず、たくさんの方に″どっぷり″演劇の魅力に浸っていただきたく、ご自身でさらに知識を深めることができるコンテンツを集めた、「どっぷり演劇ふかぼりコンテンツ」ページを公開しております。

〇公演ガイドツアー

公演中の劇場にて、公演スタッフが舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説いたします。

Drama

公演一覧

開場記念公演～2021/2022 シーズン

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	★紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子	1997. 10/22
	[蒲田行進曲完結編]銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	1997. 11/13
	夜明け前	原作　島崎藤村	脚色　村山知義 補訂脚本　津上　忠	木村光一	1997. 12/04
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鵜山　仁	1998.　1/17
1998/ 1999	★虹を渡る女	岩松　了		岩松　了	1998.　5/07
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	1998.　5/12
	★今宵かぎりは… 1928 超巴里丼主義宣言の夜	竹内銃一郎		栗山民也	1998.　6/12
	★音楽劇　ブッダ	原作　手塚治虫	脚本　佐藤　信	栗山民也	1998.　9/07
	THE PIT　フェスティバル				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」より	脚本　鐘下辰男		鐘下辰男	1998. 10/03
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	1998. 10/17
	寿歌	北村　想		北村　想	1998. 10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	1998. 11/04
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	1998. 12/02
	★新・雨月物語		脚本　鐘下辰男	鵜山　仁	1999.　1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出　観世栄夫／内山　鵜／酒井　誠／高瀬精一郎		1999.　2/03
	セツアンの善人	ベルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	1999.　5/18
	羅生門	原作　芥川龍之介		構成・演出　渡辺和子	1999.　6/04
	棋人　―チーレン―	過　士行	菱沼彬晁	林　兆華	1999.　7/01
1999/ 2000	キーン　或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本　栗山民也／江守　徹	鈴木力衛	栗山民也	1999. 10/04
	美しきものの伝説		宮本　研	木村光一	1999. 11/04
	―森本薫の世界―				
	かくて新年は	森本　薫		宮田慶子	1999. 12/08
	怒濤	森本　薫		マキノノゾミ	2000.　1/11
	華々しき一族	森本　薫		鐘下辰男	2000.　2/09
	★新・地獄変	原作　芥川龍之介	脚本　鐘下辰男	鵜山　仁	2000.　3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	2000.　4/11
	夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	2000.　5/11
2000/ 2001	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恆存翻訳より 潤色　鐘下辰男	鐘下辰男	2000.　9/08
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞　スティーブン・ソンドハイム 台本　ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞　橋本邦彦	演出・振付　宮本亜門	2000. 10/02
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	2000. 10/20
	シリーズ「時代と記憶」				
	★memorandum　メモランダム	構想・構成　ダムタイプ			2000. 11/27
	★母たちの国へ	松田正隆		西川信廣	2001.　1/10
	★ピカドン・キジムナー	坂手洋二		栗山民也	2001.　2/10
	★こんにちは、母さん	永井　愛		永井　愛	2001.　3/12
	★夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2001.　5/08
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	2001.　4/04
	贋作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	2001.　6/01

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレーヌ・シクスー	字幕翻訳　松本伊瑳子	アリアーヌ・ムヌーシュキン	2001.　9/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鵜山 仁	2001. 10/29
	★美女で野獣	荻野アンナ		宮田慶子	2001. 12/10
	シリーズ　**チェーホフ・魂の仕事**				
	Vol.1　かもめ	アントン・チェーホフ	英訳　マイケル・フレイン 翻訳　小田島雄志	マキノノゾミ	2002.　1/11
	Vol.2　くしゃみ／the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本　マイケル・フレイン 翻訳　小田島恒志	熊倉一雄	2002.　2/28
	Vol.3　★「三人姉妹」を追放されし トゥーゼンバフの物語	岩松　了		岩松　了	2002.　4/01
	Vol.4　ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	2002.　5/09
	Vol.5　櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色　堀越 真（神西清翻訳による）	栗山民也	2002.　6/21
	★その河をこえて、五月	平田オリザ／金 明和		李 炳焄／平田オリザ	2002.　6/03
2002/2003	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	2002.　9/07
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞　スティーブン・ソンドハイム 台本　ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞　橋本邦彦	演出・振付　宮本亜門	2002. 10/11
	★↗ヤジルシ －誘われて	太田省吾		太田省吾	2002. 11/12
	シリーズ**「現在へ、日本の劇」**				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	2003.　1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	2003.　2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	2003.　4/08
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	2003.　5/26
	★涙の谷、銀河の丘	松田正隆		栗山民也	2003.　5/13
	★ゴロヴリョフ家の人々	原作　サルティコフ・シチェドリン	翻訳　湯浅芳子 脚本　永井 愛	永井 愛	2003.　6/18
2003/2004	★nocturne －月下の歩行者	構成　松本雄吉		松本雄吉	2003.　9/08
	★夢の泪	井上ひさし		栗山民也	2003. 10/09
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	2003. 11/27
	シリーズ**「女と男の風景」**				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game ／ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇 『椅子』より 翻案　ジム・チム／ オリヴィア・ヤン	字幕　角田美知代	ジム・チム／ オリヴィア・ヤン	2004.　2/20
	②　★THE OTHER SIDE ／線のむこう側	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	2004.　4/12
	③★てのひらのこびと		鈴江俊郎	松本祐子	2004.　5/11
	④請願 ―静かな叫び―	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	2004.　6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2004.　3/10
	透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	2004.　3/17
	ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作詞・作曲　スティーブン・ソンドハイム 台本　ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞　橋本邦彦	演出・振付　宮本亜門	2004.　6/09

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/2005	THE LOFT 小空間からの提案				
	胎内	三好十郎		栗山民也	2004. 10/04
	◎ ★ヒトノカケラ	篠原久美子		宮崎真子	2004. 10/22
	★二人の女兵士の物語	坂手洋二		坂手洋二	2004. 11/08
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	2004. 11/16
	★城	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	2005. 1/14
	シリーズ 笑い				
	①花咲く港	菊田一夫		鵜山 仁	2005. 3/14
	②★コミュニケーションズ 現代劇作家によるコント集	作 綾田俊樹／いとうせいこう／ケラリーノ・サンドロヴィッチ／杉浦久幸 高橋徹郎／竹内 佑／鄭 義信／土田英生／別役 実／ふじきみつ彦／武藤真弓 原作使用 筒井康隆 構成・演出 渡辺えり子			2005. 4/08
	③★箱根強羅ホテル	井上ひさし		栗山民也	2005. 5/19
	④うら騒ぎ ノイゼズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	2005. 6/27
	その河をこえて、五月	平田オリザ／金 明和		李 炳焄／平田オリザ	2005. 5/13
	海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトゥロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	2005. 6/22
2005/2006	◎黒いチューリップ／盲導犬	唐 十郎		中野敦之	2005. 9/27
	◎屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2005. 10/31
	母・肝っ玉とその子供たち ―三十年戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	2005. 11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	2006. 2/09
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	2006. 3/07
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	①★カエル	過 士行	菱沼彬晁	鵜山 仁	2006. 4/01
	◎ ②★マテリアル・ママ		岩松 了	岩松 了	2006. 4/19
	③★やわらかい服を着て	永井 愛		永井 愛	2006. 5/22
	④★夢の痂	井上ひさし		栗山民也	2006. 6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2006. 5/19
2006/2007	★アジアの女	長塚圭史		長塚圭史	2006. 9/28
	「劇的な情念をめぐって」―世界の名作より―				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆／ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/02
	イワーノフ／ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恆存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/04
	◎ ★エンジョイ	岡田利規		岡田利規	2006. 12/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鵜山 仁	2007. 3/01
	★CLEANSKINS ／きれいな肌	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	2007. 4/18
	★下周村 ―花に嵐のたとえもあるさ―	平田オリザ／李 六乙		李 六乙／平田オリザ	2007. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	2007. 5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	2007. 6/18

★＝新作　◎=THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/2008	「三つの悲劇」 ―ギリシャから				
	Vol.1 ★アルゴス坂の白い家 ―クリュタイメストラ―	川村 毅		鵜山 仁	2007. 9/20
	Vol.2 ★たとえば野に咲く花のように ―アンドロマケ―	鄭 義信		鈴木裕美	2007. 10/17
	Vol.3 ★異人の唄 ―アンティゴネ―	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	2007. 11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2008. 2/26
	★焼肉ドラゴン	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	2008. 4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鵜山 仁	2008. 5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 ★鳥瞰図 ―ちょうかんず―	早船 聡		松本祐子	2008. 6/11
	Vol.2 ★混じりあうこと、消えること	前田司郎		白井 晃	2008. 6/27
	Vol.3 ★まほろば	蓬莱竜太		栗山民也	2008. 7/14
2008/2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎〈綾の鼓〉 深津篤史〈弱法師〉	2008. 9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴォーダン	2008. 10/23
	舞台は夢 ―イリュージョン・コミック―	ピエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鵜山 仁	2008. 12/03
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	2009. 3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティー	翻訳 浦辺千鶴／小田島恒志	田村孝裕	2009. 4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	2009. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	2009. 5/29
	★現代能楽集 鵺	坂手洋二		鵜山 仁	2009. 7/02
2009/2010	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	
	第一部 百年戦争				2009. 10/27
	第二部 敗北と混乱				2009. 10/28
	第三部 薔薇戦争				2009. 10/29
	象	別役 実		深津篤史	2010. 3/05
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				2010. 4/04
	夢の泪				2010. 5/06
	夢の痂かさぶた				2010. 6/03
	★エネミイ	蓬莱竜太		鈴木裕美	2010. 7/01
2010/2011	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅰ ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イプセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス／長島 確	宮田慶子	2010. 9/17
	Ⅱ やけたトタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	2010. 11/09
	Ⅲ わが町	ソーントン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2011. 1/13
	Ⅳ ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森 新太郎	2011. 4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	2011. 2/07
	鳥瞰図 ―ちょうかんず―	早船 聡		松本祐子	2011. 5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	2011. 6/09
	★おどくみ	青木 豪		宮田慶子	2011. 6/27

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2011/2012	【美×劇】 ―滅びゆくものに託した美意識―				
	Ⅰ 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	2011. 9/20
	Ⅱ ★イロアセル	倉持 裕		鵜山 仁	2011. 10/18
	Ⅲ 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	2011. 11/05
	★パーマ屋スミレ	鄭 義信		鄭 義信	2012. 3/05
	まほろば	蓬莱竜太		栗山民也	2012. 4/02
	負傷者 16 人 ―SIXTEEN WOUNDED―	エリアム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	2012. 4/23
	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅴ サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	2012. 5/31
	Ⅵ 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	2012. 6/26
2012/2013	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	2012. 10/03
	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅶるつぼ	アーサー・ミラー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2012. 10/29
	★音のいない世界で	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2012. 12/23
	長い墓標の列	福田善之		宮田慶子	2013. 3/07
	With ―つながる演劇―				
	★ウェールズ編『効率学のススメ』	アラン・ハリス	翻訳 長島 確	ジョン・E・マグラー	2013. 4/09
	★韓国編 アジア温泉	鄭 義信	翻訳 朴 賢淑	孫 振策	2013. 5/10
	★ドイツ編 つく、きえる	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	宮田慶子	2013. 6/04
	象	別役 実		深津篤史	2013. 7/02
2013/2014	Try・Angle ―三人の演出家の視点―				
	Vol.1 OPUS ／作品	マイケル・ホリンガー	翻訳 平川大作	小川絵梨子	2013. 9/10
	Vol.2 エドワード二世	クリストファー・マーロウ	翻訳 河合祥一郎	森 新太郎	2013. 10/08
	Vol.3 アルトナの幽閉者	ジャン＝ポール・サルトル	翻訳 岩切正一郎	上村聡史	2014. 2/19
	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅷ ピグマリオン	ジョージ・バーナード・ショー	翻訳 小田島恒志	宮田慶子	2013. 11/13
	マニラ瑞穂記	秋元松代		栗山民也	2014. 4/03
	テンペスト	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	白井 晃	2014. 5/15
	★十九歳のジェイコブ	原作 中上健次	脚本 松井 周	松本雄吉	2014. 6/11
	永遠の一瞬 ―Time Stands Still ―	ドナルド・マーグリーズ	翻訳 常田景子	宮田慶子	2014. 7/08
2014/2015	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅸ 三文オペラ	ベルトルト・ブレヒト	翻訳 谷川道子	宮田慶子	2014. 9/10
	二人芝居 ―対話する力―				
	Vol.1 ブレス・オブ・ライフ～女の肖像～	デイヴィッド・ヘア	翻訳 鴇澤麻由子	蓬莱竜太	2014. 10/08
	Vol.2 ご臨終	モーリス・パニッチ	翻訳 吉原豊司	ノゾエ征爾	2014. 11/05
	Vol.3 星ノ数ホド	ニック・ペイン	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2014. 12/03
	ウィンズロウ・ボーイ	テレンス・ラティガン	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2015. 4/09
	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅹ 海の夫人	ヘンリック・イプセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2015. 5/13
	東海道四谷怪談	鶴屋南北	上演台本 フジノサツコ	森 新太郎	2015. 6/10
	★かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2015. 7/06

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2015/2016	パッション	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェームス・ラパイン	翻訳 浦辺千鶴 訳詞 竜 真知子	宮田慶子	2015. 10/16
	桜の園	アントン・チェーホフ	翻訳 神西 清	鵜山 仁	2015. 11/11
	バグダッド動物園のベンガルタイガー	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 平川大作	中津留章仁	2015. 12/08
	鄭義信 三部作				
	焼肉ドラゴン	鄭 義信		鄭 義信	2016. 3/07
	たとえば野に咲く花のように	鄭 義信		鈴木裕美	2016. 4/06
	パーマ屋スミレ	鄭 義信		鄭 義信	2016. 5/17
	あわれ彼女は娼婦	ジョン・フォード	翻訳 小田島雄志	栗山民也	2016. 6/08
	★「かぐや姫伝説」より月・こうこう,風・そうそう	別役 実		宮田慶子	2016. 7/13
2016/2017	フリック	アニー・ベイカー	翻訳 平川大作	マキノノゾミ	2016. 10/13
	ヘンリー四世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	
	第一部 −混沌−				2016. 11/26
	第二部 −戴冠−				2016. 11/27
	かさなる視点 ―日本戯曲の力―				
	Vol.1 白蟻の巣	三島由紀夫		谷 賢一	2017. 3/02
	Vol.2 城塞	安部公房		上村聡史	2017. 4/13
	Vol.3 マリアの首 −幻に長崎を想う曲−	田中千禾夫		小川絵梨子	2017. 5/10
	[JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―]				
	Ⅺ 君が人生の時	ウィリアム・サローヤン	翻訳 浦辺千鶴	宮田慶子	2017. 6/13
	Ⅻ 怒りをこめてふり返れ	ジョン・オズボーン	翻訳 水谷八也	千葉哲也	2017. 7/12
2017/2018	トロイ戦争は起こらない	ジャン・ジロドゥ	翻訳 岩切正一郎	栗山民也	2017. 10/05
	プライムたちの夜	ジョーダン・ハリソン	翻訳 常田景子	宮田慶子	2017. 11/07
	かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2017. 12/05
	赤道の下のマクベス	鄭 義信		鄭 義信	2018. 3/06
	1984	原作 ジョージ・オーウェル	脚本 ロバート・アイク ／ダンカン・マクミラン 翻訳 平川大作	小川絵梨子	2018. 4/12
	ヘンリー五世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	2018. 5/17
	夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2018. 6/04
	★消えていくなら朝	蓬莱竜太		宮田慶子	2018. 7/12
2018/2019	誤解	アルベール・カミュ	翻訳 岩切正一郎	稲葉賀恵	2018. 10/04
	誰もいない国	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	寺十 吾	2018. 11/08
	スカイライト	デイヴィッド・ヘア	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2018. 12/06
	フルオーディション1				
	かもめ	作 アントン・チェーホフ 台本 トム・ストッパード	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2019. 4/11
	★少年王者舘 1001	天野天街		天野天街	2019. 5/14
	オレステイア	原作 アイスキュロス 作 ロバート・アイク	翻訳 平川大作	上村聡史	2019. 6/06
	★骨と十字架	野木萌葱		小川絵梨子	2019. 7/11
	こつこつプロジェクト ―ディベロップメント― リーディング公演				
	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	西 悟志	2019. 3/13
	あーぶくたった、にいたった	別役 実		西沢栄治	2019. 3/14
	スペインの戯曲	ヤスミナ・レザ	翻訳 穴澤万里子	大澤 遊	2019. 3/15

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2019/2020	ことぜんシリーズ				
	Vol.1 どん底	マクシム・ゴーリキー	翻訳 安達紀子	五戸真理枝	2019. 10/03
	Vol.2 あの出来事	デイヴィッド・グレッグ	翻訳 谷岡健彦	瀬戸山美咲	2019. 11/13
	Vol.3 タージマハルの衛兵	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 小田島創志	小川絵梨子	2019. 12/07
	フルオーディション 2				
	反応工程(公演中止)	宮本 研		千葉哲也	
	ガールズ＆ボーイズ（公演中止）	デニス・ケリー	翻訳 小田島創志	蓬莱竜太	
	願いがかなうぐつぐつカクテル	ミヒャエル・エンデ	翻訳 高橋文子	小山ゆうな	2020. 7/09
	★イヌビト ～犬人～	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2020. 8/05
2020/2021	ガラスの動物園（公演中止）	テネシー・ウイリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	
	リチャード二世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鵜山 仁	2020. 10/02
	ピーター＆ザ・スターキャッチャー	作 リック・エリス 原作 デイヴ・バリー、 リドリー・ピアスン	翻訳 小宮山智津子	ノゾエ征爾	2020. 12/10
	人を思うちから				
	フルオーディション3 其の壱 斬られの仙太	三好十郎		上村聡史	2021. 4/06
	★其の弐 東京ゴッドファーザーズ	原作 今 敏 上演台本 土屋理敬		藤田俊太郎	2021. 5/12
	其の参 キネマの天地	井上ひさし		小川絵梨子	2021. 6/10
	フルオーディション 2				
	反応工程 ※	宮本 研		千葉哲也	2021. 7/12
2021/2022	ガラスの動物園（公演中止）	テネシー・ウイリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	
	フルオーディション 4				
	イロアセル	倉持 裕		倉持 裕	2021. 11/11
	あーぶくたった、にいたった	別役 実		西沢栄治	2021. 12/07
	声 議論，正論，極論，批判，対話…の物語				
	Vol.1 アンチポデス	アニー・ベイカー	翻訳 小田島創志	小川絵梨子	2022. 4/08
	Vol.2 ロビー・ヒーロー	ケネス・ロナーガン	翻訳 浦辺千鶴	桑原裕子	2022. 5/06
	Vol.3 貴婦人の来訪	フリードリヒ・デュレンマット	翻訳 小山ゆうな	五戸真理枝	2022. 6/01

★＝新作

※ 当初予定していた「短編フェスティバル『嘘』（仮題）－はじめての演劇―」から演目変更

MEMO

MEMO